

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信  
No.3 令和5年8月17日発行

発行・編集  
岩手県教育委員会事務局学校教育室  
(いわて幼児教育センター)  
本通信は岩手県 HP からダウンロード  
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

## きらきら☆いわてっこ お天気のいい日は、砂や土、水と仲良し!!

4月からの園生活に慣れてきた子どもたちは、あたたかい日が差ししてくると、外に気持ちが向いて、どこかワクワクしてきます。保育者も、どんどん展開されていく外遊びの様子に、やはりワクワクしながら環境を整えていきます。そんなワクワクが生まれる遊びや工夫された環境等を子どもの姿から紹介します。



5月初旬 ★ 1歳児  
砂場で、サラサラ砂の感触を楽しんでいました。先生といっしょだと、安心!



5月下旬 ★ 2歳児  
はだしになって歩いてさわってバシャバシャ泥遊び。汚れなんか気にしない様子。先生やみんなといっしょだと楽しいね!!

### 7月下旬 ★ 3~5歳児

園近くの畑。水をたっぷり混ぜてドロドロ遊びが始まりました。雪ではない“どろだるま”作りや遊びを工夫しながら、思う存分泥んこ遊びを満喫!!!



### 左5月初旬 右7月下旬 4・5歳児 ★ 砂場に水を入れた遊び

「ここは、こう掘ってみようか!」「今、水流している?」お互いの思いや考えを出し合いながら進んでいく遊び。試行錯誤を繰り返すイメージしたものが実現したとき、大きな喜びを味わう瞬間が訪れます。



身近な環境と関わり体験したことが、次の遊びへとつながっていきます。保育者は、その遊びの援助をしながら、共に楽しさを味わうことが大切ではないでしょうか。子どもの立場や目線で、子どもが今必要としている環境を探っていくことは、そんなに難しいことではないかもしれません。

幼児は身近な環境に好奇心をもって関わる中で、新たな発見をしたり、どうすればもっと面白くなるかを考えたりする。そして、この中で体験したことを、更に違う形や場面で活用しようとし、遊びに用いて新たな使い方を見付けようとする。  
(3要領・指針「環境」から 幼P193 こP260 保P228)



# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは？

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての記述を要約すると次のようになります。

## 【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは】

5領域のねらい及び内容に基づいて、就学前施設で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児期の教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。

## 【保育者が考慮すること】

保育者は、遊びの中で幼児が発達していく姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくりたり必要な援助を行ったりするなど、保育を行う際に考慮することが求められる。

## 【到達目標ではない】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。もとより、幼児期の教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

## 【それぞれの時期にふさわしい保育】

5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、それぞれの時期から、乳幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい保育を積み重ねていくことに留意する必要がある。

## 【学びの連続性のために】

子どもの発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。幼稚園教育要領 P92

## 【小学校でも踏まえるもの】

この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼稚園の教師等と子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。  
小学校学習指導要領総則 P73

あらためて確認  
してみましょう。



### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- |                         |
|-------------------------|
| (1)健康な心と体               |
| (2)自立心                  |
| (3)協同性                  |
| (4)道徳性・規範意識の芽生え         |
| (5)社会生活との関わり            |
| (6)思考力の芽生え              |
| (7)自然との関わり・生命尊重         |
| (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| (9)言葉による伝え合い            |
| (10)豊かな感性と表現            |

<引用>

幼稚園教育要領 P52  
こども園教育要領 P49  
保育所保育指針 P62

接続のために大切なことは、こちらにも示してあります。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえてとは、具体的にはどうすればよいのでしょうか？

！ **子どもの内面に育っている力、育ちつつある力を見取る視点（窓口）として活用する**  
子どもの内面に育っている力、育ちつつある力を見取る視点（窓口）として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しましょう。多様で多角的な考察が可能になるでしょう。例えば、「自立心」が育っていると見取った子どもの遊ぶ姿の中にも、視点を変えれば、「思考力の芽生え」や「言葉による伝え合い」「協同性」などの育ちも見取ることができたり、それらが相互に関係し合っていることも理解できたりするのではないのでしょうか。

このような多面的な読み取りを保育者自身もつことが、「踏まえて」ということだと考えられます。